

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

令和 7 (2025) 年 3 月号

編 集 武田 隆久
発 行 人 〒102-8414 東京都千代田区三番町 9-15
一般社団法人 日本病院会 事業部教育課
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)
URL <https://jha-e.jp/>
受付時間 10:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)
発 行 日 毎月 1 日

診療情報管理部門におけるデータ活用

海野 博資

公益財団法人操風会 岡山旭東病院
診療情報管理室 室長

通信教育を受講中の皆様の中には、既に医療機関や施設で勤務されている方もいれば、まだこれから医療業界に飛び込む方もいらっしゃるかと思います。しかし、近い将来、診療情報管理士としてご活躍されることは間違いありません。そのような皆様に向けて、実務者の立場から当院でのデータ活用事例など業務を一部ご紹介し、少しでも学びの一助となれば幸いです。

当院は 2004 年に DPC 試行的適用病院として参加し、それ以降の 20 年間で DPC データの活用方法は大きく変化しました。当初は、学術大会で DPC 請求と出来高払いの差異に焦点を当てた発表が主流でしたが、徐々に全国データとの比較や自院の地域での立ち位置の把握、機能評価係数 2 をいかに評価されるかが重要視されるようになりました。現在では、DPC データと厚生労働省のフィードバックデータを活用した分析が、当院でも定期的に行われています。

特に、重症度・医療看護必要度の導入後、看護師の評価と DPC データの整合性が求められるようになりました。これにより、当院では看護師の評価と DPC データの定期的な突き合わせを行い、データの正確性を保っています。また、救急医療管理加算は救急補正係数にも影響するため、入院時の JCS スコアや手術施行症例のチェックを行い、電子カルテのデータウェアハウス (DWH) を活用し、HbA1c や eGFR など基準値を超えた検査結果を医事課に提供し、未算定症例を補足する仕組みを導入しています。

DPC データの様式 1 の項目も年々増加し、詳細な分析が可能となりました。単なる診療報酬請求のデータとしてだけでなく、臨床、医療安全、病院経営分析にまでデータを活用する時代になりつつあります。2024 年度の診療報酬改定では、「褥瘡発生率」「転倒・転落発生率」「入院後 48 時間以内の栄養アセスメント実施率」「身体的拘束率」といった臨床指標の項目が追加され、診療情報管理部門の役割はさらに重要になってきます。

これからの診療情報管理士として、診療側と連携し、現場に有益なデータを提供することが求められます。個人の気づきには限界があるため、各種委員会への積極的な参加や学術大会での情報収集、他院の取り組みからの学びが不可欠です。資格取得後は、ぜひ学術大会に参加して学びを深め、共に成長していきましょう。診療情報管理士として皆様とお会いできる日を楽しみにしています。